

令和7年度

第28回子ども俳句大会

入選作品集

応募校

網走小学校

西小学校

潮見小学校

南小学校

東小学校

呼人小学校

白鳥台小学校

西が丘小学校

網走市立図書館



令和七年度 第二十八回 子ども俳句大会入選作

選者 網走十七美会客員会員

『知音』副代表

俳人協会会員

中川 純一

天位 休み時間入道雲がおよいでる

白鳥台小学校6年生 立花 朋佳

休み時間には校庭に出ますね。すると今日は青い空に大きな入道雲がもくもくと盛り上がっていました。しかも風もあるのか、それが泳いでいるように見えるというのです。ただの雲が流れるというのではなくて、入道雲だからこそ、泳いでるという表現が大きな力強さを感じたことを表していて、ともかさんの気持が自然に読者に伝わってくるよい句です。

地位 夏の海ガラスのようにキラキラと

網走小学校5年生 園田 藍

網走では海を見ることが多いですね。海は一年中あるけれども、ある夏の日にみた海はガラスが輝くように光っていた。心の中にいつまでも残るあの夏の日の思い出という感じ。一緒にいたのは仲良しさんなのでしょう。

地位 かきごおりブルーハワイは色が海

東小学校2年生 居内 結太

かきごおりにも色々な名前がついていて、いろんなシロップがかかっていますね。ブルーハワイという名前のものには海のような青緑のシロップがかかっている、どんなあじかなあと思って食べると。冷たい！そして甘いなあと感じたことが伝わりますね。

地位 ソリにのりおとされまくりくつぬげる

西が丘小学校3年生 笹田 笑莉

ソリ遊びをしたのですね。落ちまくりでなくて、落とされまくりということは自分で滑っているのではなくて、ひかれているように聞こえます。以前に網走でトナカイのソリに乗ったことがあります。とても面白かったけれど、落とされまくりたら大変ですから、これはお父さんがひいたそりなのかな？くつがぬげるほど転げたけれど楽しかったとわかります。

人位 生ぬるいプールサイドの水たまり

網走小学校6年生

松山 貴俊

プールは室内でないと、冷たいことがあります。小学校のプールはたいいてい外ですが、網走だと冷たいことが多いかもしれません。そう思っつてプールサイドの小さな水たまりに触つてみると生ぬるかつた。その驚きと笑いの瞬間を切り取つていて、読者にも気持が通じます。なにか大きな感動というのでなくとも、そんなことあるなあと読者に思わせる句です。

人位 ふうりんを鳴らして皆でわらおうよ

西小学校3年生

三坂 心葉

夏休みでしょうか、何人か集まっています。なんとなく話題もとだえて、しんみりしてしまいました。そうだ、風鈴をならして、その涼やかな音を聞いてみんなで笑おうという、心葉さんの明るさが感じられます。みんなもそうだそうだと賛成したことでしょう。

人位 夏の夜三つの星が光ってる

潮見小学校5年生

堺 策玖

オリオン座の三ツ星のことでしょう。夏休みは夜空を見上げる時間をゆつたりと取れますね。友達と一緒にだと星座のことも話題になるでしょう。あの三ツ星なんで並んでいるのかな？そんな気持で見上げている姿が目には浮かびます。

人位 カブトムシこん虫ゼリーたべすぎだ

南小学校4年生

中川 陽太

甲虫を家に飼っているのでしょうか。餌は昆虫ゼリーというものを売っているのを見つけて買ってきた。そしてそれをあげると夢中になってどんどん食べてしまう。君、食べすぎだよと声をかけて見守っているひなた君ですね。



佳作	わらい声まどを開けると夏まつり	網走小学校3年生	北野 葵巳
佳作	いっぱいだなかい友だちぼんおどり	網走小学校4年生	阿部 凌季
佳作	夏祭り屋台がたくさんどれにしよう	網走小学校4年生	元谷 梨々愛
佳作	草原に春の黄色いカーペット	網走小学校5年生	三浦 歩佑海
佳作	窓の外むらさき光る朝顔だ	網走小学校6年生	高橋 日茉莉
佳作	かまくらはゆきがかたくてつくれない	西小学校2年生	平野 みお
佳作	風鈴のおと聞くと夏が来たそう分かる	西小学校6年生	吉道 優愛
佳作	夏休み自分一人でさびしいな	潮見小学校3年生	大高 遥
佳作	たくさんのでんとうむしをつかまえる	潮見小学校3年生	和田 愛里
佳作	ひまわりよ朝の明るさあらわれる	潮見小学校4年生	佐々江 柚之介
佳作	雨上がり夏空見れば空に虹	潮見小学校6年生	山本 駿六郎
佳作	かきごおりおいしかったがあたまがきーん	南小学校1年生	杉山 健哉
佳作	かきごおりたいようの下たべたいな	南小学校2年生	塩野 梨乃
佳作	じかんわりたのしみにまつプールの日	南小学校3年生	加納 穂佳
佳作	思い出にみんなでおどるぼんおどり	南小学校4年生	塩野 琉乃
佳作	全力でお母さんも夏祭り	南小学校4年生	高岡 優心
佳作	花火大会だれといこうかまよいちゅう	南小学校5年生	後藤 咲菜
佳作	まるで花みんなで見たい花火大会	南小学校6年生	佐藤 百香
佳作	兄共に色とりどりの紅葉見る	南小学校6年生	千葉 聖斗
佳作	夏の影麦わら帽子置いていく	東小学校6年生	今泉 心奈

佳作	照りつける日差のように咲く向日葵	東小学校6年生	新徳 愛美
佳作	すっぱいなまだたべれないしろいちご	呼人小学校1年生	佐藤 累
佳作	空うかび咲く菊花火海しずむ	呼人小学校5年生	中田 覚馬
佳作	夏の夜街にきこえる虫の音	呼人小学校5年生	馬場 万由子
佳作	夏休みパパとお出かけ魚つり	白鳥台小学校3年生	北川 航太郎
佳作	夏まつりかざくと食べるりんごあめ	白鳥台小学校3年生	鈴木 陽斗
佳作	妹とポテチを食べて花火見る	白鳥台小学校3年生	渡辺 いちる
佳作	祖母と見る桜がひとつまたひとつ	白鳥台小学校5年生	加藤 愛結
佳作	ついてくる綿毛飛ばした帰り道	白鳥台小学校5年生	西谷 楓葉
佳作	夏の夜キャンプに行ってきつね出る	西が丘小学校3年生	佐藤 任

佳作三十句もそれぞれに皆さんの気持ちが表れていてよかったです。どうぞこれから心を感じることを俳句に詠んでみてください。

※応募者の記入そのままに掲載しております。誤字・脱字等のご容赦ください。



第二十八回子ども俳句大会 選評

私はかつて網走市に十一年間住んで、農大の教員をしていました。窓からは白鳥の群れや、鷺、鶴などが飛んでいるのが見えてびっくりしました。

そして海や空がとてもきれいで、どこまでも大きくみえる。近くの樹のてっぺんには鷺がいつもとまっている。並木道のななかまどの色がとても美しく、そこに来る鳥たちもきれいなものが多い。お魚も美味しい。

春になると、雪に立つ木々の根本が空いてきて、「根開き」がおきる。これは季語だけれど、見たことがあります。夏は短いけれど、風が心地よくて、花々が一斉に咲く。秋には紅葉が美しく、きれいな渡り鳥が沢山やってくる。そして真っ白な雪、見たこともなかった流水の海。

網走は俳句の題材の宝庫です！

ですから、俳句は夏休みの宿題だからといって、夏祭りとかキャンプだけが題材と考えないで、豊かな自然に恵まれた網走の感動をどんどん俳句にしてください。

その場合、「たのしいな」「うれしいな」「きれいだな」などの言葉を使うのはやめましょう。

なぜでしょうか？　そういう言葉を聞くとそこで作者の言いたいことが小さくまとまってしまいます。読者は「ああそうですか、よかったですね」と結論だけで、それ以上心の中でひろがりません。

俳句はとても短いので、全部を言い切るのではなくて、読者が同じような体験を思い出して、作者と気持ちがつながることで味わい深い鑑賞になるのです。

それには季語が大切な役割をします。今は秋にあたります。でも皆さん、「秋の空」というと、晴れたきれいな青空を思いうかべてそこにいる気持になります。逆に「秋の暮」というとわびしい、もうすぐに冬が来るそんな気分です。「秋晴」と「秋風」「秋雨」それぞれ気分は違っていきますね。

どうぞ来年は色々な季語で一年中の自分が感動したことを詠んでみてください。

俳句を詠むために準備するものはほとんどありません。手帳一冊ボールペン一本でできます。作文とちがって短い時間でいくつもできます。それらは心をこめた分だけ、あとから読んでも思い出深いものになります。お金もかからずに続けられる俳句、皆さんの中から興味をもつて続けてくれる子がいると嬉しいです。

また教員の皆さんには、宿題を出す前の授業で生徒たちに俳句を作る機会を与えてやってください。

私は農大付属稲花小学校で俳句を教えています。が、季語などの説明をして、「うれしいな」などはダメと言った後で、その場で全員に俳句を作ってもらいます。そして全員の句を教室の前のボードに書き出すか、または大きな短冊に書いてもらって張り出します。そして、読んできかせて、それぞれが好きな句に手を挙げてもらいます。すると沢山手の上がる句、誰も取らない句など別れます。沢山手があがったものは手をあげた子にどうして好きなのか聞きます。誰も手をあげなかった句は、もう一度音読してみ、ここが少しわかりにくいのかな？作者は誰？ときいて説明してもらいます。そして、ああ、それならこういうふうに言ったらいいんだと教えてあげていきます。こうすると俳句は短いので、クラス全員の句について語ることができます。このような授業を一度してから、心に残っていることを俳句にしてみようと声をかけてやってください。そうするとずっと多彩になります。

もしも先生方にとって俳句を授業だけで教えるのが負担だという場合、例えばNHKテレビの「NHK俳句」を親ごとと一緒に見るように勧めてみてください。毎週日曜日の朝にやっています。

子ども俳句大会の活動がますます盛んになることを祈っています。